

# サクラエビ資源管理研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成17～21年度)  
担当：資源海洋研究室 安倍基温

## 【研究の背景とねらい】

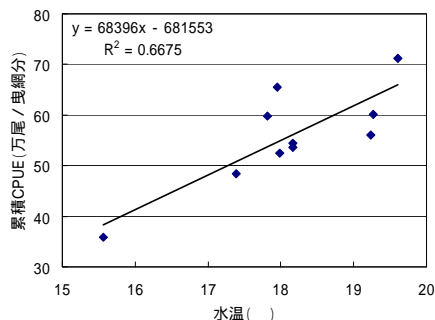
サクラエビの資源量は、年によって大きく変化することが知られています。これまでの研究により、平均体長、産卵時期、水温などから資源水準の動向が予測できるようになり、この結果に基づき資源管理が行われていますが、年によっては予測が大きくはずれることがあります。今後も適切に漁業を管理し、安定した漁獲量を保つためには、その原因を追究し、漁期前における資源水準予測手法の精度の向上を図る必要があります。さらに、的確な資源管理を行うために、資源量の把握や再生産関係の解明なども課題となっています。

## 【研究成果】

- ・秋漁における1歳エビの体長の予測は、今まで春漁(5月)での体長と、その後の夏場の水温環境から予測していましたが、9月下旬～10月下旬における調査船「駿河丸」の試験操業で漁獲されたサクラエビの体長から予測する方法に変更した結果、精度が向上しました。
- ・1998～2007年級群の10年間について、産卵期である6月～8月の水深50mの水温と、その年級群の資源豊度(その年級群が漁獲される漁期ごとの累積CPUE(曳網1分あたりの漁獲尾数))について検討したところ、相関が非常に強いことが分かりました。このことから、サクラエビの資源豊度は産卵期の水温環境に大きく影響を受けていることが分かりました。
- ・しかし、1997及び1996年級群については、上記の結果は当てはまりませんでした。これらの年級群は他に比べて極端に親エビの量が少ないと見積もられ、ある程度の親エビの量は必要であることが示唆されました。
- ・1993～2007年級群の15年間について生まれた翌年の5月での体長と資源豊度を検討したところ、相関が非常に強いことが分かりました。このことから翌年春漁での体長は資源豊度の影響を受けていることが分かりました。



調査船「駿河丸」による試験操業風景



6～8月の50m深水温と資源豊度の関係(1998～2007年)

## 【研究成果の普及方法】

会議や研修会に出席し、延べ500人以上に対して調査・解析結果を発表しました。周知した主な内容は、漁期中には体長組成や漁獲量など、産卵期には産卵場の水温環境や産卵状況などです。そして、春漁と秋漁の前には、漁況の見通しについて発表しました。

(作成 平成22年3月)